

# 国 労 東 日 本

(組合員の購読料は組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5 交通ビル  
国 労 東 日 本 本 部  
発行責任者 伊藤秀樹  
編集責任者 伊藤隆夫

No. 664 定価 20円

2007年

9月28日

国 労 東 日 本 主 催  
第 12 回 皇 居 マ ラ ソ ン  
11月10日(土)  
※申込は所属地本に申し出てください

## 安全で安心して働き続けられる職場作りに向け 「仕事総点検運動」を！ 新たな局面を確認し、今こそもう一人の仲間を国労へ！



国 労 東 日 本 本 部 は 8 月 31 日 ～ 9 月 1 日、静 岡 県 熱 海 市 に お い て 第 21 回 定 期 大 会 を 開 催 し た。 2 日 間 に 渡 る 大 会 は、30 名 も の 代 議 員 か ら 活 発 な 討 論 が 展 開 さ れ、と り わ け、安 全 ・ 労 働 条 件 問 題、組 織 強 化 ・ 拡 大、さ ら に は 昨 年 11 月 の 「一 括 和 解」以 降 の 状 況 に つ い て 議 論 が 集 中、6 点 か ら な る 書 記 長 集 約 を 踏 ま え 当 面 す る 運 動 方 針 を 確 立 し た。尚、新 執 行 部 は 伊 藤 委 員 長 以 下 (4 面 掲 載)、を 選 出 し た。

7月16日発生した新潟中越沖地震で被害に遭われた組合員・家族・退職者の皆様に心からお見舞い申し上げます。最初に国労の最大の課題である「1047名不採用問題」ですが、2006年度末の解決を目指して、地方・中央が一体となり取り組んでまいりました。残念ながら政府の壁は厚く、政治解決に至っていませんが、4者4団体が「大同団結」して以来、政治解決の環境作りは客観的にも主体的にも着実に広がりつつあると考えています。



### 伊 藤 委 員 長 挨 拶

国 労 東 日 本 本 部 は、本 部 と 連 携 を 図 り、闘 い の 先 頭 に 立 つ こ と を 訴 え ます。

8月9日、病氣療養中の所ご逝去された東日本本部・故金澤書記に対する黙祷から始まった第21回定期大会は、藤野副委員長長の司会挨拶、資格審査委員会からの69名全代議員の出席報告で大会成

### 1 日 目

次 第 は、伊 藤 委 員 長 の 挨 拶 (左 掲) に 始 ま り、 来 賓 (4 面 掲 載) の 挨 拶、 国 労 加 入 者 の 紹 介、弁 護 団 報 告 へ と 続 い た。 議 事 は 大 会 延 期、協 約 協 定 締 結、決 算 ・ 監 査 報 告 を 含 め た 財 政 議 題 に つ い て は 各 自 承 認、経 過 報 告 ・ 運 動 方 針 (案)

### 2 日 目

前 日 に 続 き 経 過 に 対 す る 質 疑 か ら 2 日 目 の 議 事 は 再 開 し、4 名 の 代 議 員 発 言、執 行 部 答 弁 で 経 過 を 承 認、引 き 続 き 運 動 方 針 (案) に 対 す る 討 論 に 入 っ た。 発 言 は 中 間 答 弁 を 挟 み

第 2 の 課 題 は、「J R 発 足 20 年」に な る こ の 時 期、鉄 道 事 業 の 「規 制 緩 和」政 策 の あ り 方 な ど、見 直 し を 図 っ て い く 取 り 組 み が 重 要 と 考 え い ま す。 国 労 東 日 本 本 部 は、J R 東 日 本 会 社 と の 「正 常 な 労 使 関 係 の 確 立」に 全 力 を 上 げ る と し、 「安 全 ・ 安 定」輸 送 の 確 立、「不 公 平 感 の な い 職 場 の 確 立」「安 心 し て 働 く こ と が で き る 健 全 な 会 社 を 作 る」こ と に 全 力 を 尽 く す 事 と し ま す。 同 時 に、昨 年 11 月 の 「一 括 和 解」以 降 の 職 場 状 況 か ら 「一 括 和 解」の 勧 告 書 で 明 記 ・ 確 認 さ れ て い る 「会 社 と 組 合 は、本 件 和 解 の 趣 旨 及 び 内 容 に つ い て、

20 名 も の 代 議 員 よ り 熱 心 な 討 論 が 展 開 さ れ、そ れ を ふ ま え た 高 野 書 記 長 の 集 約 答 弁 で 2007 年 度 運 動 方 針 が 満 場 一 致 の 拍 手 で 可 決 成 立 し た。そ の 後 議 事 は、2007 年 度 予 算 (案) を 承 認 し、選 挙 管 理 委 員 会 か ら の 報 告 (別 掲) を 受 け 新 執 行 部 を 選 出、ス ト ラ イ キ 権 の 確 立、決 議 2 本 ・ 大 会 宣 言 (案) を 各 自 読 み 上 げ 全 体 の 拍 手 に て 確 立、伊 藤 委 員 長 の 団 結 ガ ン バ ロ ー で 21 回 大 会 の 全 日 程 を 終 了 し た。 たい と思 い ます。 私 たち は、国 労 差 別 攻 撃 ・ 国 労 つ ぶ し に 「抗」し て 20 年 間 組 合 員 が 闘 い、多 く の 弁 護 団 に 支 え ら れ、今 日 の 「中 間 的 到 達 点」を 迎 え る こ と が で き ま し た。国 労 東 日 本 本 部 は、要 求 の 多 数 派 か ら 組 織 の 多 数 派 へ の 展 望 を 持 っ て、運 動 を 進 め て き ま し た。 他 労 組 の 動 向 に 一 喜 一 憂 す る こ と な く、情 勢 ・ 情 報 の 共 有 化 を 図 り、職 場 活 動 の 活 性 化、労 働 条 件 の 改 善 を 基 軸 に す え、組 織 拡 大 に お け る 取 り 組 む こ と を 訴 え ます。 国 労 差 別 に 抗 し て 闘 っ た 20 年 を 土 台 に、更 な る 国 労 運 動 前 進 に 向 け 国 労 東 日 本 本 部 執 行 部 が、先 頭 に 立 ち 奮 闘 す る 決 意 を 申 し 上 げ 執 行 委 員 会 を 代 表 し て の ご 挨 拶 と し ま す。

# つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

## 「4者・4団体」・全組合員の総団結・総決起により、JR不採用事件の早期解決を実現しよう！

### 討論 ★経過10人★

- 小野浩美(東京) 橋本光一(仙台)
- 松田優一(千葉) 菊島高徳(東京)
- 保泉誠(高崎) 厚沢幸夫(東京)
- 高木道治(水戸) 横内俊博(盛岡)
- 清水孝友(長野) 石井正彦(東京)
- ★ 車両メンテナンスのライフサイクルについて見直しの交渉をさらに、この間車両メンテナンスの検証は十分進んでいないのが現状、「今後の車両メンテナンスに対する本社との勉強会」が出来るように要請する！
- ★ 早急に和解以降の職場実態調査を実施し、問題点の解消に全力を！
- ★ 大な被害を被りながら和解したことに対して改めて見解を求めたい！
- ★ 解決に向けて「4者4団体」の行動を最優先課題と位置付け政治的な解決に向けた取組強化を！
- ★ 青年層の拡大に向け青年部向けの学習資料や東労組対

### 反転攻勢 組織拡大を 全力で！

### 討論 ★方針20人★

- 粕尾彰(長野) 東平賢一(千葉)
- 菊地要悦(盛岡) 鈴木雅典(東京)
- 熊田信浩(東京) 谷川春男(東京)
- 木村誠一(千葉) 服部清(東京)
- 金子錦也(東京) 菊池輝雄(水戸)
- 唐沢富男(東京) 高橋誠(秋田)
- 齋持忠雄(東京) 我妻三津男(仙台)
- 高山信義(東京) 山田芳夫(仙台)
- 高橋繁(高崎) 菊池志志(水戸)
- 西尾一登(東京) 原子清貴(仙台)

### ◎不採用事件

JRに採用された私たちが再度原点に戻り、闘争団と一体となって全力を尽くさなければならぬ。

横浜人活事件は、採用差別事件の足がかりにする為に勝利しなければならぬ。世論形成にむけ、ILO



### 書記長集約

経過で10名、方針で20名、合計30名の代議員から発言をいただいた。

第1は、JR不採用問題の早期解決を実現する闘いについて。第75回定期全国大会において、この機に解決を図るために「4者・4団体」の団結を解決まで堅持・強化していくことを、あらためて確認された。私たち東日本本部も、この確認に基づきさらに団結を固め全力を挙げることとします。

第2は、「安全・安定」輸送、労働条件改善の

策に向けた資料を作っていた。また、今後の組織拡大に向けた対策は？

★ 首都圏輸送障害低減に向け「申32号」の交渉に全力をあげていただきたい。

★ 貨物の和解には反対ではないが、組合員の思いは様々、慎重な取り扱いを！また、貨物春闘、9年連続ベアゼロ打破に向けストライキを構えた闘いを！

★ 東日本本部主催による組織拡大経験交流会の開催や情報交換によるニュースの発行を！

★ 若手社員の教育は、一地方一系統の問題ではなく要員に関わる問題。本社・本部間の整理が必要！

★ 職協交付金について、場合により特別交付金の検討も！

★ 7月に東青森構内にてJR貨物から出向中の社員が、入れ替え中に自ら誘導して引き上げていた貨車に触車死亡する痛ましい事故

第7次勧告を履行する署名などの取り組みが必要ではないのか。

意見書採択に全力をあげよう。

◎正常な労使関係の構築

仮に差別や不利益があったら組織をあげて取り組む方針を明確に。自動昇格の要求を掲げていることをもってアピールしてもらいたい。

和解しても職場管理者の姿勢は変わっていないという声もある。相手を変えさせるためにも周知徹底を図ってほしい。

和解を受け試験で議論してきた。一定の成果はあるものの、年令や回数でまだまだ不十分な面が多い。検査も含めて整理を図るようにといいことでの意見もいただいている。今後の中で、検証を行いながら、要求を集約し、取り組みを進めていきたい。

また、既に首都圏輸送障害低減に向けた対策の強化に関する申し入れも取り組んでいくところであり、これについて早急に交渉が開催できるよう取り組みを進めていくこととします。

第3に、08年春闘について。貨物の9年連続ベアゼロを打破したいというご意見もいただいた。今後、本部・貨物協議会とも連携を図りながら、貨物会社における賃金の会社間格差の是正を求める取り組みについて、旅客の組合員が一体となって全力で取り組みを進



が！職場を総点検する必要はある。より安心して働き続けられる職場を作ること、で、「安全・安定輸送」の確立を！

★ 「東北新幹線新青森延伸」に向け工事が急ピッチ。これにより、並行在来線の経営分離問題が迫っている。職場ではこの先不安が共通！この雇用問題しっかり交渉を！

★ 不採用問題について、決定打を打つ闘いの提起をお願いしたい。

★ 夏季手当について来年度は元に戻し、ベア・手当ては別交渉を！

★ 試験問題について、一括和解も含めて今後も機関としてはつきりとして方針、今後どうするか総括をしながら広げてもらいたい！

証と周知の取り組みが必要。バス会社出向で差別を受けた。和解により自動車への復帰も出てきている。和解をスタートと位置付け懸案事項を解決し、拡大に結びつける努力をしよう。

会社施設利用も条件付ではあるが、認められるように変化している。

新たなライフサイクルで国労が50歳以上を要求として入れた根拠を明らかにすべき。

業務委託が進められる中、支社として対応しきれない事項も多くなっている。IP電話など本社同僚の開催を要請する。出向期間満了に伴う延長は、本人同意を前提とするために協定改定の取り組みを強めてもらいたい。

新システム「ジンジャー」により事務の合理化が行なわれようとしている。解明してもらいたい。

契約社員の導入や駅の業務委託が進められている。検証と実態調査が必要になっている。

新たなライフサイクルで国労が50歳以上を要求として入れた根拠を明らかにすべき。

重要な課題。昨年11月から19名の拡大・加入に自信と展望を持ち、進めていかなければならない。組織強化・拡大会議、指導車掌・主任者交流等を適時開催し、組織拡大に全力を挙げようこととします。

第6に、政治闘争の強化について。憲法改悪のため国民投票法案が成立をさせ、憲法改悪の動きは今後急速になることが想定される。またテロ特措法の延長反対など、反戦・平和、民主主義の闘いに全力を挙げることとします。

東日本本部は、当面する不採用事件の政治解決、労働条件改善、組織強化・拡大など全力を尽くすことを申し上げ、集約にかえたい。大変ご苦勞さまでした。

### ★経過★ 執行部答弁

○JR貨物の和解協議について、一つは公正・公平な人事運用、あるいは適正な労務管理、そしてJR貨物におけるまともな労使関係の確立に向けて。この基本的な立場を堅持し本部と全力を尽くしたい。

○首都圏輸送障害低減に関する「申」の中でも、車両メンテナンス近代化の問題は既に提出している。この交渉が早い時期に行われるよう、取り組みを強めていきたい。

○昨年一括和解以降、1年という状況の中、実態を把握し検証を進める。

○東日本本部も、毎年1月に組織拡大対策会議を開催。今後検討し、取り組みを進めていきたい。また、青年対策の学習資料・学習会の開催などについても、青年部と意見

モニター通勤の拡大など今ある負担を軽減させる必要がある。

駅の新規採用者の教育は、乗務員のように期間を決めて研修が必要ではないか。

安全に対しては、ストライキを配置してでも闘う姿勢を明らかにすべき。

6月から4両、さらに10月からは6両ワンマン運転がされようとしている。粘り強い取り組みを。

MV30配置により、東北北区議会では窓口廃止に対して撤回を求める議会決議がされ支社への要請もされている。

MV30が入り一名減員された。東労組の青年から要求の作り方を相談され国労と一緒にものを会社に提出した。粘り強い闘いが必要。設備メンテナンスから6年。見直しの取り組みと要員確保にむけ、交渉の強化を規制緩和と格安バスなど競争が激化し、安全と労働条件が切り下げられている。スキーバスの死傷事故が起きたが、JRでも起こりえる状況だ。

安全対策について申し入れの強化など継続した取り組みと、自治体、利用者巻き込む具体的な運動を提起すべき。

会社組織に合わせ、地区本部を地本化する必要がある。

委託された職場の交渉のため、出向会社に分会を立ち上げ交渉を確立する必要があるのではないか。

組織のあり方について、エリア本部として単一組織の強化を明確にすべき。

地方により事情があり、出向先分会については柔軟性のある対応をしてもらいたい。

出向先に労組があった場合、国労で分会が立ち上げられるのか。

主任合格者のフォローを国労で取り組むべきではないのか。

組織プロジェクトをつくり親書などを新採に配布し、新採を1名加入させることが出来た。

和解により、これまでと違った拡大の流れが生まれている。東日本に専門チームを作る必要があるのではないか。

対して求めている。また、輸送障害教育も含め「申」を提出しているの、教育のあり方、要員の配置などを求めている。

○東青森駅構内の触車死亡事故について、既に貨物協議会も取り上げ、会社との交渉も行っている。事故原因を説明しながら、こうした事故が二度と起こらない、職場をどうつくっていくのか、安心して働ける職場づくりと併せ取り組みを進めていきたい。

○2010年の青森新幹線開業に伴う並行在来線の第3セクター化問題は、方針書にもあるように、関係地方本部と対策委員会を設置し、今後の取り組みについて意見交換・意思統一を深め、取り組みを進めたい。

○夏季手当の取り扱いについて、基本的には春闘の要求と夏季手当の要求とは別立てとして交渉を取り組んでいきたい。

### ◎その他

機関紙表彰の基準の見直しとあるが、変更点を明らかにしてほしい。

「9条の会」や「憲法を守る会」の結成に対し支援を。また、学習会などの開催を。

今年度機関紙表彰



仙台地本年間32号 大田博二
高崎地本年間38号 高橋繁
東京地本年間45号 渡辺信之
「分会かへしんぶん」年間86号
「連結器」年間50号
安濃敏雄
新潟地本年間31号 藤井明人
長野地本年間53号
「スクラム」年間53号
北沢正美
秋田地本年間251号
「支部日報」年間251号
相田守
水戸地本年間39号 坂本公則

東日本本部委員

定数20名

- 盛岡地本 菊池要悦
菅山賀庸
秋田地本 高橋誠
仙台地本 原清貴
山田芳夫
新潟地本 福富雅彦
高崎地本 高橋繁
水戸地本 菊池忠志
千葉地本 井村好博
長野地本 粕尾彰
東京地本 厚沢幸夫
大芦郁夫
西野光司
佐藤敏道
服部清
渡部和男
相笠清勝
日野忠春
宇塚史明
高山信義

来賓

顧問弁護士 福田護
顧問弁護士 海渡雄一
前中央労働委員会・松井労働者側参与委員
全交運共催東日本事業本部・宮坂本部長
国労会館・古関専務理事
国労本部・濱中書記長

メッセージ

国労関係
西日本本部執行委員長
東海本部執行委員長
四国本部執行委員長
九州本部執行委員長
家族会東日本連合会会長
株式会社印刷センター
田中守
山梨幸夫
中川英幸
伊藤一之
北沢江利子

ありがとうございました

労働条件改善に向けて闘います
採用差別事件解決 執行部一丸となり

退任された役員
いっしょに頑張りました

- 藤野節 第7回大会～7期14年 調査・組織部長 19回大会から副委員長を歴任
樋口重孝 第19回大会～1期2年 調査部長を歴任
町田建三 第15回大会～3期6年 貨物担当を歴任

- 執行委員長 伊藤 秀樹
総括、総務、政治共闘 国労議員団、会館、交運労協 家族会、会社別協議会
執行副委員長 松井 正義
財政部長、組織担当
書記長 高野 苗実
企画兼業務部長、全国戦術委員 全国組織検討委員、社員共済会 共済協幹事、簡易苦情処理幹事
執行委員 武笠 秀也
調査部長 教宣・業務担当
執行委員 青柳 義則
組織・教宣担当
執行委員 山根 主吉
法対兼賃対部長 苦情処理幹事
執行委員 武田 幸喜
組織部長 青年部担当
執行委員 伊藤 隆夫
教宣部長 業務担当
青年部長 木村 忠義
婦人部長 佐々木久恵
特別執行委員 平田 正男
貨物担当
会計監査員 松本 正吉
会計監査員 劔持 英雄
会計監査員 古川 数行

各種担当(◎幹事)について

- ① 経営協議会(12名)
伊藤、◎高野、松井、山根、
東京、千葉、水戸、高崎、長野、
盛岡、秋田、仙台、書記(新潟)
◎ 交渉委員(10名)
高野、松井、山根、
◎ 東京、千葉、長野、盛岡、
秋田、仙台、書記(武笠)
◎ 簡易苦情処理 補助委員:伊藤(隆)、武笠
◎ 高野、山根
◎ 苦情処理委員 山根、伊藤(隆)、武田、青柳

がん予防・検診から治療まで、ご心配は無料相談まで!
健康支援金プラス!
通院も入院も同様保障に!
がんの保障+病気・ケガの保障
健康応援団MAX
アベニール 株式会社
03-3437-6810 03-3437-6822
Affac